



# とぎのこえ Good News for Japan

平成二十七年四月一日発行  
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

……一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してください」と語り合った。

(ルカによる福音書24章13～32節 抜粋)

〈イースター・メッセージ〉

## 復活の力



大将 アンドレ・コックス



イースターの日曜日、なんと素晴らしいお祝いの時でしょう！ 神は、御子イエス・キリストをよみがえらせることによって、死に打ち勝たれました。そして、わたしたちを罪から解放してくださいました。さらに、イエスを主として、救い主として受け入れた者すべてに、永遠なる将来を確立し、確実に、危険と、恐れとに満ちています。しかし、イエスが贖ってくださった命は衰えることも、消え去ることもないとイースターは、教えているのです。

今年のイースターは、移動祝日です。春分の後の最初の満月のすぐ後に来る日曜日となっています。4月5日です。

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。  
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

復活のイエスの栄光を喜ぶ時、わたしたちの心は神をほめたたえる思いに満ち溢れます。世界の救いのための神の永遠の目的と計画について、新しい洞察と理解を得ることによって、心から喜んで賛美するのです。イエスが死からよみがえられたのですから、神を信頼し、神に希望を置くならば、わたしたちも、死からよみがえることができるのです。神が独り子をこの世に送られたのは、この世を裁くためではありませんでした。

イエスの弟子たちが、イエスの十字架の死という恐ろしい出来事に直面して抱いた驚き、失望、恐れ、落胆は、十分理解できます。彼らは、全く途方にくれ、シヨックを受け、どうすればよいかわからなくなっていました。イエスは弟子たちに、何度となく、ご自分が死ぬことと、三日目によりみがえることを話していたにもかかわらず、なぜ弟子たちは、一人もイースターの朝の出来事を理解することができなかつたのでしょうか？

暗闇と不正の力が勝っていたのでしょうか？ 今日、そのように考える人たちが存在します。

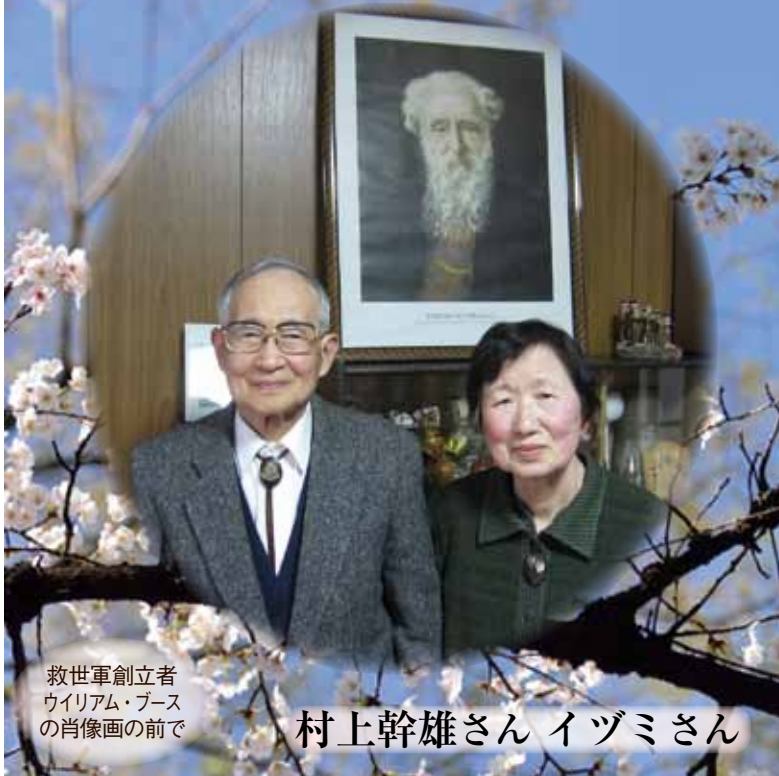
苦しみ、絶望、不正、貪欲、暴力が世に満ちており、経済的にも不安定な現代、クリスチャンの中にも、気落ちしている人がいるかもしれません。あるいは、何らかの理由で、幻滅している人も。エマオへ向かう弟子たちも、そんな気持ちで言葉にしています。\*上記参照  
「わたしたちは、あの方こそイエスを解放してくださいと望みをかけていました。」  
よみがえられたイエスが弟子たちの前に現れた時、彼らは、それがイエスだと気がつきませんでした。おそらく彼らの悲しみと失望が、明確なことさえ見えなくしていたのでしょう。

今日、わたしたちも、生活の中にイエスがおられるのにそれに気づかないでいることが往々にしてあります。クリスチャンは、いつでも、復活の力とその喜びを生き方の中に反映させて

(次ページ六段目に続く)

〈インタビュー〉

# 神様の 不思議なお導きで



救世軍創立者  
ウィリアム・ブース  
の肖像画の前で

村上幹雄さん イヅミさん

福岡県北九州市にある救世軍に、信徒の村上幹雄さん・イヅミさん夫妻を訪ねました。

「昨年の暮れ、厳しい寒さの中、社会鍋（救世軍が毎年おこなう街頭募金）に毎日立たれた、と伺いました。失礼ですが、おいくつでいらっしゃいますか。」

幹雄 私は今年九十一歳、家内のイヅミは八十一歳になります。現在、ここ八幡小队（教会にあたる）に属し、二人で小队活動を喜んでさせていただいています。

イヅミ 私たち夫婦は、両方共、キリスト教の信仰に無縁の家庭で生まれ育ちました。でも、それぞれ救世軍に関係する方との出会いからクリスチャンとなり、結婚へと導かれたのです。不思議なお導きです。

「では、その辺りのことからお聞きしましょう。まず、幹雄さんから……。」

幹雄 私は生まれつき体格が良くなく、病弱でした。それで徴兵されず、昭和十六年に戦争が始まった翌年から、動員されて兵器工

場で働くようになりました。その工場に、当直者が当番で来るのですが、その中の一人の方は、「この方は普通の人と違う」そう感じさせるものをもっていました。やがて、その方は大越忠孝さんと言ひ、クリスチャンであることがわかりました。昭和二十年八月十五日終戦の時、お互いに住所を取り交わして別れました。

「その大越さんという方が救世軍の信徒だったのですか。」  
幹雄 そうです。戦前に福

岡の救世軍に行っていたようです。

私が戦時中働いていた工場は常に埃が舞う環境で、加えて毎日、残業徹夜でした。それで体を壊し、肺潤の診断が下されてしまいました。安静にして栄養を摂らなければなりません。食料難の当時、叶はずもなく、全く絶望の日々を送っていました。

その時、思い直して大越さんに手紙を書き、信仰書を貸していただきました。それらの本を読むうち、聖書の言葉にふれ、神様の存在に目が開かれていきました。ただ寝ているだけだった療養の時間が、すばらしい求道の期間となったのです。

「我は復活なり、生命なり、我を信ずる者は死ぬとも生きん。凡そ生きて我を信ずる者は、永遠に死なざるべし」(ヨハネ福音書11章25節 文語訳聖書)

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」  
この聖書の言葉が私の胸を打ち、また励まされました。

「ご病気は回復されましたか。」  
幹雄 はい、何とか。でも、ちゃんと働けるようになる



のはもつと後、三十歳になつてからでした。戦後の混乱の中、なかなか仕事に就くことができませんでした。そんな時、大越さんから、救世軍の八幡小队に行くように、との連絡をいただいたのです。昭和二十三年でした。

五月に初めて訪れた八幡小队は、若い人がいて活気に溢れていました。私は、もうこの時までには、クリスチャンとして生きていこうと決心していましたので、その年の十一月に、神の御子イエス様が自分の救い主であることを信じ、救世軍の信徒になりました。

「それでは、イヅミさんのお話を……。」

イヅミ 私は、大分県の田舎の農家に生まれました。学校を卒業すると、母の勧めで、宮崎県延岡市にいた姉を頼って家を出ました。当時、姉は保険の外交員をしていました。その関係で、安村トメさんというクリスチャンの女性と知り合い、キリスト教会に行くように

(前ページより続く)

いるでしょうか？ 正直に自分自身を見つめるならば、いつでもそうであるとは言えない、と認めるしかありません。しかし、いつまでもそのままであるべきではないですし、その必要もないのです。

わたしたちの霊的な目が開かれ、神の永遠の目的をより深く理解するようになるならば、信仰を通して、暗闇と失望に打ち勝つ勝利の経験をするようになります。そして、日毎にわたしたちの人生において、キリストの復活の力を知ることができるとです。ハレルヤ！

わたしの祈りは、復活の主の事実を祝うこの時、わたしたちのよく知る次の歌の言葉が、皆さんの心に響き渡ることです。(万国総督

一、いざびとよ ほめまつれ

よみがえりし 勝利の主

見よ、何もなく  
ただ衣の 残るのみ

(おりがえし)

いざびとよ ほめまつれ

よみがえりし 勝利の主

二、イエスはげに 死に勝ちて

はらいませり くるきやみ

陰府の勝利 今いざこ

死はどく針 もがれたり

三、いのちの主 さかえの主

たえつたわん いざたちて

主にしたこう われらにも

主のごとくに 勝たしめよ



結婚式。安村トメさん (前列左端) と宣教師夫妻と。

なっていました。それで、私も教会に行くようになりました。

安村さんは、姉だけでなく私の面倒も何かと見てくださいました。この安村トメさんは、かつて救世軍の女性伝道者だったのです。

私は、最初、トメさんのご主人と同じ職場で働いていましたが、トメさんの勧めで、宣教師の家の手伝いをする事になり、宣教師が帰国するまでの二年間、メイドとして働きました。クリスチャンになったのは、二十三歳の時でした。

つて安村夫妻に届き、イツミを紹介されたのです。イツミ、私も、結婚するならクリスチャン、と思っていました。宣教師の質素な生活ぶり、人に喜んで物を与えるクリスチャンホームの温かさを間近に見ていたからです。紹介された主人は、病弱で、財産もなく、しかも八人きょうだいの長男。結婚すれば、苦勞は目に見えています。私の家族は、クリスチャンの姉一人を除いて皆、主人との結婚に反対しました。

幹雄 最終的に、イツミは、私がクリスチャンというところでだけ、結婚を決心してくれました。昭和三十五年八幡小隊で結婚式を挙げました。私三十六歳、イツミ二十七歳でした。

—では、お二人の結婚までのいきさつについてお聞かせください。

—クリスチャンホームを築かれて、いかがでしたか。

幹雄 イツミは家を守り、私の両親にもよく仕えてくれました。結婚後、子どもができて二年間くらいは、なかなか小隊に行くことができませんでしたが、子どもが大きくなると、私と共に礼拝を守り、小隊での活動に力を注ぐようになりました。感謝なことに、両親は私たちの信仰生活に理解を示し、快く小隊に送り出して

してくれました。父は一九七九年に八十五歳で、母は二〇〇八年に百六歳で亡くなりましたが、イツミは最期までよく面倒を見てくれました。

—お仕事はどのようなことをされていたのですか。

幹雄 いくつか小さな店に勤めましたが、どこも長く続けることはできませんでした。四十五歳の時、経理を必要としている会社を紹介され、勤めることになりました。その会社には、会計の責任者として七十五歳まで働くことができました。終戦後、肺浸潤で療養していた時、独学で簿記の勉強をして商工会議所の上級を取っていたのが、役に立ったわけです。定年の年齢を過ぎて必要とされたことを、感謝しています。

—お二人は小隊ではどのような奉仕をされているのですか。

幹雄 今は、書記という役目をいただいで、礼拝での司会や会計のお手伝い、会館清掃、また、

春と秋におこなわれる募金活動に従事させていただいています。

その前は、二十年くらい青少年のための働きをさせていたでいていました。日曜学校では高校生を受け持ち、日曜学校に備え、毎日、聖書の勉強をしました。これは、私自身にとって、良い学びの時となりました。

イツミ 主人は、毎週日曜日、車で子どもたちを送り迎えしてました。日曜学校が終わると、今度は信徒の方たちの送り迎え。主人の勤めていた会社が社用車を自由に使わせてくれたので、とても助かりました。退職金代わりということでした。

それから、家庭を開放し、小隊長(牧師にあたる)に来ていただいたいて、子ども会もおこないました。十五、六人が椅子に座れるよう、部屋を改築しました。

私は、今、「家庭団」という女性の集まりの会計をしています。また、礼拝後の愛餐会の食事づくりもさせていたでいています。小隊で、信徒の皆さんと一緒に過ごすのがとても楽しく、生きがいです。

—ご家庭はいかがですか。

幹雄 私はもともと病弱で、大きな病気も何度かしましたが、周りの方々に支えられて何とかやっていくことができました。その分、イツミは健康で、入院一つしただけです。神様が私を助けてくださっているのだらう、と感謝しています。(笑)

イツミ 本当にそうです。私は毎晩、大好きな聖書個所の詩編二三編を暗誦しながら床に就くんです。よく眠れますよ。それが健康の秘訣かも知れませんね。私は、今が一番幸せです。孫たちにかかる手も離れて、夫婦二人の静かな毎日です。



子ども会のクリスマス



日曜学校での奉仕をしていた頃



毎日、社会鍋に立って

Form with fields for name, address, and contact information. Includes checkboxes for subscription and return address.

—お二人のこれからの抱負をお聞かせください。

イツミ 私は、主人と一緒に、これからも小隊の働きのお手伝いをしていきたいと願っています。

幹雄 私も、同じ思いです。「求めなさい。そうすれば、与えられる」(マタイによる福音書7章7節)

—(八幡小隊(教会)所属)

—(八幡小隊(教会)所属)

—(八幡小隊(教会)所属)

—(八幡小隊(教会)所属)

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 勝地

次郎 (救世軍本営 東京都千代田区)

http://www.salvationarmy.or.jp

## 救世軍とは

The Salvation Army

世界 126 の国と地域で活動する、プロテスタントのキリスト教会です。



1865年、イギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブースによって始められ、貧しい人々、家のない人々、仕事に就けない人々、アルコールにおぼれる人々、搾取される女性たち、顧みられない子どもたち、災害に遭った人々……などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895年に始まりました。伝道の拠点である小隊(教会にあたる)を開設し、**廃娼運動**を積極的におこない、失業者対策、児童養護や女性保護、結核療養所の設立、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて人々の必要に応える様々な社会福祉、医療の働きを興してきました。

これらの働きの中でも、アルコール依存症者の回復支援は、救世軍がその草創期から取り組んできたものです。酒のために自分の人生ばかりか家族の生活をも狂わせてしまう、この病気からの脱出の道を提供する団体として、信徒たちは率先して酒類を摂らない生活を送っています。

日本では、『ときのコえ』や『禁酒のすすめ』(山室軍平著)、講演会などで酒の害を説いてきました。現在も、アルコール依存症者回復支援施設で、断酒と個別支援計画に基づく自立支援の働きをおこなっています。また、毎年、酒害強調週を設けて啓発に努めています。

今年は 4 月 5 日～11 日が  
**酒害強調週間**です。

## アルコール依存症者支援施設

- **自省館 (救護施設)**  
生活の場を提供し、回復のために、個別支援計画に基づく生活及び自立支援をおこなっています。 TEL 042-493-5374
- **男子社会奉仕センター**  
バザー場での作業を通して、身体的・精神的回復を図り、社会復帰できるよう支援しています。 TEL 03-5860-2992

**救世軍バザーのご案内**

- **救世軍バザー場**  
東京都杉並区和田 2-21-2 TEL 03-5860-2992  
オープン 毎週土曜日 9～14 時  
中野富士見町駅 (東京メトロ丸の内線) 下車徒歩 10 分
- **江東出張所**  
東京都墨田区太平 4-11-3 TEL 03-6261-5704  
オープン 毎週土曜日 10～15 時  
錦糸町駅 (東京メトロ半蔵門線/JR) 下車徒歩 10 分

新中古衣料、雑貨など掘り出し物多数

## 日用品配布ボランティア募集

4月から11月まで毎月1回、月曜日、東京・大手町の常盤橋公園でおこないます。詳しくは、救世軍本営 社会福祉部  
TEL 03-3237-0865 までお問い合わせください。

発行所 救世軍本営 図書印刷株式会社

電話 東京 (03) 3337-0881

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番地

編集人 齋藤 恵子

印刷兼 代表者 勝地 次郎

発行日 毎月一日・十五日

▼定価  
一日号 一部五〇円 (二六〇円)  
十五日号 一部六〇円 (二六〇円)  
クリスマス特集号 十二月一日号 一部一〇〇円 (二七〇円)  
一年分 二七〇円 (送料七五〇円)  
振替 〇〇一八〇五四四〇〇

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

## 世界をみつめて

### 〈アメリカ〉依存症からの回復を支援

アメリカの救世軍では、アルコール依存症からの回復支援に100年以上取り組んでいます。現在、全米に119カ所のアダルト・リハビリテーション・センター (以下ARC) があります。清潔な宿泊施設において、作業療法、グループセラピー、個別の治療を受け、アルコールや薬物などの様々な依存症から回復して社会に復帰し、日常生活が送れるよう支援しています。

ARCの働きは、公的支援によらず、救世軍の「ファミリー・スリフト・ショップ」(寄付された物品を販売)事業によって成り立っています。入所には、適切なプログラムを受けるための面談があり、入所後は、6か月以上のプログラムに参加します。




### ある女性の体験談

#### 「神様は、麻薬から救ってくださいました！」

(救世軍季刊誌『リバイブ』より抜粋)

15歳の時、初めてマリファナを吸いました。面白半分でしたが、「ハイ」(気分が高揚すること)になることに夢中で、アルコールも飲むようになりまして。遊びに興じ、20代の初めには、コカインにも手を染め、「自分は人生を楽しむ成功者だ」と思っていました。やがて純度の高いコカインを常用し、働いたお金はすべて麻薬につき込み、夜は麻薬、朝起きて仕事、という毎日を送るようになりました。体も心もボロボロになり、一度は「自分の力で」17年間薬物を断ちました。支援を受けて大学に進学、結婚して子どもも授かりました。けれども、すべてが順調に思えた時、拭いきれない孤独感にさいなまれて、またコカインに手を出してしまったのです。転落はあつという間でした。お金を使い果たし、最後には売春とあらゆる暴力を受ける生活になりました。とうとう逮捕され、6つの罪で有罪。出所後も洋服だけをカバンに入れて売春するしかない状況でした。

けれども、神様は私を憐れんでくださいました。2010年、売春の罪で再逮捕された時、ARCへの入所が決定したのです。しばらくしてARC内の教会に出席し、やがて救世軍の信徒となりました。イエス様によって私の人生は全く変えられたのです。大学での学びも再開し、卒業できました。神様のご計画の中に生きる目的を見いだした今、私はARCでカウンセラーとして働き、本当に充実した平安な日々を送っています。



今年、救世軍の創立150年、日本で救世軍の活動が開始されて120年の記念の年です。

### イギリス・ロンドンでは・救世軍創立150周年記念万国大会を開催

7月1日(水)～5日(日) 〈テーマ〉全世界を贖う限りない恵み 大会の様子はインターネットで配信されます。

### 日本では……120周年記念行事を開催

- 120周年記念セミナー「明日へのチャレンジ 新たな道を」  
5月3日(日)～5日(火) イザヤ書43章19節 - 50年後のビジョンを抱いて-
- 全国青年大会 〈テーマ〉Feel the Power of God  
9月20日(日)～22日(火) 神様の力を感じて Stand up!

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)